奈良県感染症情報

平成 27 年 第 2 週(1 月 5 日～ 1 月 11 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

！！インフルエンザ警報発令中！！

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖ (1 月 5 日～1 月 11 日の状況)

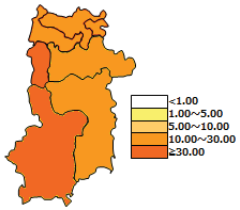
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	26.74	(7.15)	↑	↗	↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	4.41	(1.24)	↘	→	↘	↘
3	RS ウイルス感染症	1.21	(0.68)	↓	↓	↘	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.12	(0.21)	→	→	↘	↑
5	水痘	0.79	(0.03)	→	↗	→	↘

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

インフルエンザ警報発令中です。北部での大流行に加えて、葛城保健所、内吉野保健所管内など中南部でも急増しています。

学校保健安全法では、発症した後（発熱の翌日を１日目として）５日を経過し、かつ解熱後２日を経過するまで出席停止とされています。また、抗ウイルス薬の投与により解熱した場合でも感染力は残っているため、発症後５日を経過するまでは欠席することが望ましいとされています。この間は、学校や職場以外でも人の多く集まる所へ行くのを控え、感染拡大させないように注意してください。



インフルエンザ
保健所別定点当たり報告数

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

年末に大流行していたインフルエンザは休みによりやや減少している。ノロウイルスの感染性胃腸炎も子供は少なく成人例でカキを食べに行って感染した方が時々ある程度で少ない。RSウイルス感染症もインフルエンザ同様に休みにより減少、手足口病が年末よりでている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は普通程度、まだそう多くない状況。

インフルエンザが増加、すべて A 型。比較的軽症で無熱の陽性例もあった。感染力もそう強くないのか家族内でも罹患を免れる人もある。

感染性胃腸炎が流行、ノロ様で嘔吐が主。今冬ロタはない。

その他水痘が流行。A 群溶連菌感染症が少し。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザ流行中。すべて A 型で B 型はみられない。呼吸器症状に乏しく、熱と頭痛だけのものや、発熱がなく全身倦怠感のみのインフルエンザもみられる。

下痢中心のウイルス性胃腸炎も多い。また手足口病が散見されている。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 4 週(1 月 19 日～ 1 月 25 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

！！インフルエンザ警報発令中！！

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

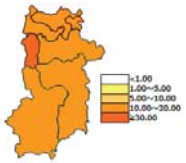
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	24.72	(26.11)	→	→	↗	→
2	感染性胃腸炎	4.50	(4.21)	→	→	→	→
3	RS ウイルス感染症	1.41	(1.15)	↘	↘	↘	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	1.24	(1.09)	↗	↗	↗	↘
5	水痘	0.65	(0.18)	→	→	→	↑

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

インフルエンザ警報発令中です。先週と比べると報告数はやや減りましたが、依然としてかなり多い状況です。特に、葛城保健所管内での流行が顕著です。インフルエンザは飛沫感染や接触感染で感染が広がります。引き続き手洗い・うがい、咳エチケットやマスクの着用を心掛けてください。

また、年明けから少し落ち着いていた RS ウイルスが、再び増えてきています。近畿では和歌山県に次いで多い報告数です。患者は３歳児未満が 85%を占めています。子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤で消毒し、手洗いを励行しましょう。また、大人も気付かないうちに感染していることがあるため、乳幼児に接する際にはマスクを着用することも効果的です。



インフルエンザ
保健所別定点当たり報告数

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは、年末がピークであったようで、増加傾向には無い。正月で一旦減少していたRSウイルス感染症が再び保育園児で増えてきている。感染性胃腸炎も小流行が続いている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加傾向にあるものの超混雑という事はない。

インフルエンザの流行が続いているが、軽症例が多く無熱の例や、家族内でも全員に蔓延しない家族も多い。2才女児でB型が検出された以外すべてA型。タミフル等の耐性例も見られていない。

ノロ様の感染性胃腸炎がある。ワクチンの効果か、今冬ロタは見られない。

他に水痘、A群溶連菌感染症がすこしづつ見られる。

伝染性紅斑が1例あった。

手足口病、アデノが流行との幼稚園の情報があり。2才女児の手足口病が1例あった。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザの流行は続いている。A 型のみで、タミフル耐性と思われるものはない。ノロ(+)の胃腸炎の小流行もみられている。非典型的なインフルエンザも多く、早期診断の困難な場合がある。

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 6 週(2 月 2 日～ 2 月 8 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

！！インフルエンザ警報発令中！！

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	11.07	(16.22)	↘	↘	↘	↓
2	感染性胃腸炎	5.71	(5.50)	↗	↗	↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	1.26	(1.21)	↗	→	↗	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.97	(1.26)	→	↘	→	↑
5	水痘	0.82	(0.41)	↑	↑↑	↓	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

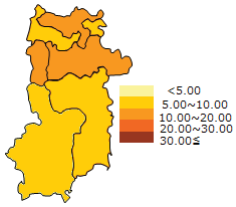
❖県内概況❖

インフルエンザ警報発令中です。先週に引き続き県内全保健所管内で報告数はかなり減少しました。特に郡山、内吉野、吉野保健所管内では警報レベル終息基準値である 10 を下回りました。県全域としては警報解除には至らない状況ですので、引き続き手洗い、うがいなどで感染予防を心掛けてください。

感染性胃腸炎はほぼ横ばいで例年と比較すると、低く推移しています。

RS ウイルス感染症は報告数が下がりましたが、例年より高い水準で推移しています。患者は３歳以下の子どもが中心です。子どもたちが日常的に触れる手すりなどはこまめにアルコール等で消毒し、手洗いを励行しましょう。

また、郡山保健所管内の保育所で水痘（みずぼうそう）の流行がみられます。今後の発生動向に注視する必要があります。



インフルエンザ
保健所別定点当たり報告数

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は 1 月になり徐々に減少してきたが、先週後半になりグッと減少した。B 型は検出されているが少ない。RS ウイルス感染症は依然として保育園児を中心に 2－3 歳以下で多くみられる。感染性胃腸炎はノロウイルスが主で軽症、症状の重いロタは殆ど無い状態が続いている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は減少傾向、この時期にしては少ない。
インフルエンザ A 型が減少。B 型は先月１例あったのみ。
軽症、かつ成人、幼児含めて家族内全員への波及のない例もある。
感染性胃腸炎の流行はすこしずつ持続。ロタは明らかに減少した。
夏風邪の手足口病が流行中、アデノ、伝染性紅斑もあった。

南部地区(県立五條病院小児科)

A 型インフルエンザの流行は減少傾向がみられる。逆にB 型が増加してきている。家族内感染例では1名程度無熱軽症(普通感冒程度)がみられるので、学校でも同程度割合の軽症インフルエンザが登校していることが考えられる。

また、感染性胃腸炎が増加してきている。ノロ陽性例が多いが、ノロにしては下痢が強い印象がある。

手足口病の小流行も続いている。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 8 週(2 月 16 日～ 2 月 22 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.35	(4.56)	→	→	↗	→
2	インフルエンザ	4.17	(5.76)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.94	(0.94)	→	→	↘	↑
4	手足口病	0.74	(0.44)	↑	↑↑	↗	↗
5	水痘	0.59	(0.41)	→	→	↗	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

インフルエンザは先週に引き続き減少傾向です。近隣府県も同様に減少傾向にあり、今シーズンの流行は終息傾向にありますが、油断をせず引き続き外出後の手洗い、うがいをこまめに行い感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎はやや上昇しました。ノロウイルスを原因とするやや規模の大きい集団発生事例が中和保健所管内西部の小学校で発生しました。十分な手洗いをこまめに行うほか、感染性胃腸炎の疑いのある人の嘔吐物や便を処理するときには、マスクを着用の上、十分な換気のもとでノロウイルス等に有効な塩素系消毒液（次亜塩素酸ナトリウムなど）を使用しましょう 。

季節外れの手足口病の小流行が郡山保健所管内で見られます。今後の動向に注視する必要があります。増加傾向にあった伝染性紅斑は減少傾向です。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行はほぼ無くなった感がある。B 型は流行せずに終わりそうだが、比率は増えている。感染性胃腸炎も少なく、ワクチン未接種者の幼児ではロタがみられる。溶連菌咽頭炎と流行性耳下腺炎がやや増加している。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザの減少に伴い外来数は減少。
インフルエンザは殆ど見られなくなった。B 型も見られない。
RS 様の発熱・咳嗽の多い例があり経過がやや遷延する例もあった。
感染性胃腸炎は流行中。ノロと思われる嘔吐例が学童で多く学級閉鎖もあった。
短期の高熱が見られる例もあったが、輸液を要する例はなかった。
幼児では水様下痢例があった。今冬ロタは見られなかった。
一時流行の手足口病は見られなくなった。
その他流行性耳下腺炎が僅か。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザの流行は落ち着きだした。B 型が大部分で、一部 A 型もみられる。
感染性胃腸炎は流行中。ロタウイルスに加え、ノロウイルスの家族内感染もみられる。
また、伝染性紅斑も数名発生した。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 10 週(3 月 2 日～ 3 月 8 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.56	(5.82)	↗	↗	→	↗
2	インフルエンザ	3.02	(3.69)	↓	↓	↓	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.56	(1.50)	↗	↗	→	→
4	手足口病	1.06	(0.47)	↑	↑↑	→	↓
5	RS ウイルス感染症	0.65	(0.38)	→	↗	↘	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎が増加しています。奈良市保健所管内では定点当たり報告数が先週の約 2 倍となっています。患者は低年齢、特に 1 歳の子どもを中心に増加が目立ちます。

春になると、ノロウイルスに加え、ロタウイルスやサポウイルスによる感染性胃腸炎が増加してきます。県内でも感染性胃腸炎の集団発生が増えてきており、保健研究センターでの検査ではノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルスを検出しています。予防には食事の前やトイレの後にこまめに手を洗うことが重要です。

手足口病が北部、中部地域で増加しています。奈良県の定点当たり報告数は近府県で最も多い状況です。また、例年よりも高いレベルで推移しており過去 10 年では最も高いレベルとなっています。手洗いやうがいといった基本的な感染症予防対策を心がけて下さい。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数は減少している。インフルエンザは 1 日 1 人程度になっており、B型が優勢になっている。発熱などの症状はウイルス自体が弱ってきているのか軽症が多い。感染性胃腸炎が最近増加傾向にある。ノロウイルスとロタウイルスの両方が出ており、高熱があり下痢が長引く子で、ワクチン未接種者はロタウイルスが出ている。手足口病も時々みられるが、熱発は無く水疱性発疹と口内炎が多い。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は普通。インフルエンザは前々週にB型が一例あって以来ほぼ終焉の状況に思えたが今週になりA 型が再びあり、4 才単発例と県内勤務の父親からの感染による 2 才児及び臨月の母親の家族内感染事例。

感染性胃腸炎は嘔吐のノロ例が少しずつ。ロタはない。

他にアデノ、A 群溶連菌感染症があった。手足口病は減少した。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザはさらに減少。A、B 型とも時々散見されるのみ。

胃腸炎はノロウイルス感染を中心に依然として流行が続いている。ロタウイルスの流行は少ない。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 12 週(3 月 16 日～ 3 月 22 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.74	(7.18)	↘	↘	→	↗
2	インフルエンザ	3.63	(4.02)	→	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.47	(1.85)	↑	↑	↑	↘
4	手足口病	0.79	(0.76)	→	↘	↑	↘
5	RS ウイルス感染症	0.56	(0.44)	→	↘	↗	↗

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎は奈良市保健所、中和保健所西部(旧葛城保健所)地域で大きく減少しましたが、こまめな手洗いを心がけて予防に努めましょう。

インフルエンザは減少傾向が続いていますが、奈良市保健所管内では定点当たりの報告数が 5.0 を超えています。インフルエンザは定点当たりの報告数が 1.0 を下回るまでは引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(A群溶連菌咽頭炎)の報告が北部地域を中心に増えてきています。例年よりかなり高いレベルで推移しており、昨年度のピーク時よりも多い状況です。現在、A群溶連菌咽頭炎は全国的にも増えています。飛沫感染、接触感染の予防として手洗い、うがいなど一般的な予防の励行が大事です。

手足口病は例年よりも高いレベルで推移しています。県内全域から報告がありますが、中部地域で特に多い状況です。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは平均して 1 日 1 人程度の発症者が 2 月初旬より続いている。2 月中は大半が A 型であったが 3 月になりB 型となっている。

感染性胃腸炎は、中学生以上では生かき関連が大部分で、幼児は保育園児が多い。ノロウイルスは嘔吐と 下痢が軽度で 2―3 日で軽快している。手足口病が幼児で時にみられるが、発熱はみられない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は気温の寒暖により僅かに増加。

インフルエンザは前週やや増加傾向が見られたが、今週に入りほぼ終焉の様相。B 型が主、A 型がわずか。

発熱と咳嗽の激しい気管支炎、肺炎の例が幼児、学童に増加。

感染性胃腸炎は減少傾向であるが嘔吐が主のノロ様の例もある。3 才児でロタウイルス陽性例があった。

他に A 群溶連菌感染症が小流行中。

南部地区(県立五條病院小児科)

一部保育所でインフルエンザ B 型の小流行があるも、全体としては患者数は少ない。

ノロウイルス様の胃腸炎の流行は続いている。ロタウイルス陽性例は少ない。

RS ウイルス感染例もあるが軽症に経過した。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 14 週(3 月 30 日～ 4 月 5 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報
- 保健研究センター4 月だより

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.41	(5.76)	→	→	→	→
2	インフルエンザ	2.09	(2.24)	↘	↘	↘	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.00	(2.18)	↘	↓	→	↓
4	手足口病	0.74	(0.79)	→	→	→	↓
5	水痘	0.44	(0.29)	↑	↑↑	↓	→

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎がわずかながら増加しています。昨年に比べて今年は、春の感染性胃腸炎が多いようです。保健研究センターの検査では、ロタウイルスが検出されています。

手足口病がこの時期としては高めで推移しています。こちらは、コクサッキーウイルス A 群 16 型(CA16)が検出されています。CA16 の仲間であるエンテロウイルス 71 やその他のコクサッキーウイルスは検出されていましたが、CA16 は過去 3 年間検出が無く、昨年秋あたりから検出が続いています。今後の動向が気になるところです。

水痘が郡山保健所管内で地域流行しています。

インフルエンザは、少しずつ減少していますが、定点当たり報告数 1.0 を下回るまで、引き続き感染予防を心がけましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数は春休みに入り減少している。インフルエンザは依然として B 型が平均して 1 日 1 人前後みられる。成人が大半です。感染性胃腸炎は暖かくなりかなり減少しています。一方、手足口病が保育園児で流行しています。1 日程度の発熱が出る場合もあるが症状はいつも通りです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。

インフルエンザはまだB型が僅かに見られるが殆ど減少した。

感染性胃腸炎は、幼児から学童にロタウイルスが増加、成人にも感染例がある。水様下痢に加え発熱を伴う例が多い。

発熱、咳嗽、喘鳴を伴うマイコプラスマ様の乳幼児例がやや多い。ヒトメタ陰性。

他に A 群溶連菌感染症、手足口病が見られる。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザはほぼ終息した。B 型がたまに散見されるのみ。

ウイルス性胃腸炎の流行は続いている。春休み期間のためか、家族内感染が主である。

遷延する咳嗽例も多く、気管支炎併発もみられる。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 16 週(4 月 13 日～ 4 月 19 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.88	(3.59)	→	→	↓	↑↑
2	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(0.76)	→	→	↗	↑↑
3	インフルエンザ	1.89	(1.24)	↘	↘	↘	→
4	手足口病	0.65	(0.79)	→	→	↘	↓
5	水痘	0.47	(0.26)	↑	↗	↑↑	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染症は全体的には落ち着いて見えますが、一部地域で患者数が増加しているものがあります。

感染性胃腸炎及び**A 群溶連菌咽頭炎**が、郡山保健所及び吉野保健所管内で大きく増加しています。感染性胃腸炎は、幼児（１～４歳）の報告が多くなっています。また、A群溶連菌咽頭炎は近畿府県全体でも１６週は増加しており、今後更に増加するかも知れません。

インフルエンザが郡山保健所管内で先週に比べて増加しており、定点当たり報告数が 2.8 となっています。インフルエンザは、定点当たり報告数が 1.0 を下回るまではまだまだ油断できません。引き続き感染予防を心がけてください。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数は少ない。インフルエンザは相変わらず B 型のみが 1 日 1 人程度のペースで来院されている。子供と成人がほぼ半々です。手足口病の流行が保育園児で続いています。症状は 1 日程度の発熱のある例もあるが軽症が多い。それ以外目立った感染症はありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。

インフルエンザは B 型がポツポツ程度に見られる。

感染性胃腸炎が流行中。ワクチン未接種の乳幼児から学童のロタウイルス腸炎が多い。発熱、嘔吐の下痢のない早期から採便で陽性を確認できる例が多い。

ノロ実施例で陽性はなかった。

A 群溶連菌感染症、アデノ様が見られる。

手足口病は減少した。

南部地区(県立五條病院小児科)

新学期に入ってインフルエンザは B 型中心にやや増加した。感染性胃腸炎は多く、ロタウイルス陽性例はすべてワクチン未接種児だった。

夏カゼ様の咽頭炎(軟口蓋に細かな発赤)が数例みられたが、対症療法で軽快するも高熱が 2,3 日続いた。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 18 週(4 月 27 日～ 5 月 3 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.18	(6.65)	→	↘	→	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	3.09	(2.24)	↑	↑	↑	↑
3	手足口病	2.21	(2.59)	↑	↑	↑	↑↑
4	インフルエンザ	1.00	(1.76)	↘	↓	→	→
5	突発性発しん	0.56	(0.26)	↑	↑	↑	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は中部地域および吉野保健所管内からの報告が多く、８週間にわたって高いレベルで推移しています。患者は３歳代から５歳代が中心です。

手足口病は乳幼児に好発する疾患で、例年夏季に流行がピークとなります。現在、西日本地域で例年より早い時期で流行がみられており、近府県でも拡大しています。奈良県全体の患者数は先週に引き続き例年よりも高いレベルで推移しており、特に中部地域からの報告が多い状況です。

感染予防のために感染者との密接な接触は避けるとともに、帰宅後のうがい・手洗いを習慣づけ、体調不良を感じたら早めに医師の診察を受けてください。また、体調が回復してもウイルスの排出はしばらく続きます。排便後やオムツ交換後などには十分な手洗いを忘れないようにして下さい。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

気温が高くなり、感染症は夏型に移行してきました。インフルエンザは3月より毎週 5 人前後ありましたが先週にやっとみられなくなりました。感染性胃腸炎も同様に減少しています。水痘が久しぶりに数人みられましたが、明らかに少なくなっています。溶連菌咽頭炎と発熱があっても 1 日程度の軽症の手足口病が幼児を中心に流行しています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。インフルエンザは連休前に B 型がわずかにあった。
感染性胃腸炎では、ロタウイルスが幼児、年長児に渡って流行。
手足口病が増加。A群溶連菌感染症が少し。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザは A、B 型とも散見される。
感染性胃腸炎の流行は続いている。ノロ・ロタウイルス陰性だが下痢遷延例がみられる。
また、夏カゼ様の咽頭炎が増加してきている。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 20 週(5 月 11 日～ 5 月 17 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.65	(3.26)	↗	→	↑	↘
2	A群溶連菌咽頭炎	3.59	(1.62)	↑	↑	↗	↑
3	手足口病	1.74	(1.71)	→	↑	↘	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.56	(0.21)	↑	↑	↑	→
5	突発性発しん	0.50	(0.03)	↑	↗	↑	↑↑

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（A群溶連菌咽頭炎）が増加しています。北部地域および南部地域からの報告が特に多い状況です。例年の同時期と比べて２倍以上のレベルで推移しており、中でも吉野保健所管内では警報基準値(8.0)に達しています。患者は２歳～１４歳に広く分布しています。

手足口病は例年よりかなり多い状況が続いており、近府県でも同様の傾向がみられます。患者は１歳代が最も多く、６ヶ月児から４歳代の報告が目立ちます。

感染予防のためにうがい、手洗いを心がけると共に、患者とのおもちゃやタオルなどの共用を避けることが大切です。

なお、インフルエンザは定点当たり報告数が流行の目安となる 1.0 を２週連続で下回り(今週 0.33)、流行は終息しているとみられます。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

台風が来たり雨が多くなり、喘息関連の子が増えました。溶連菌咽頭炎が小学生で流行しています。手足口病も多くの保育園流行が拡大しています。1－3 才児が中心です。軽症が多く、熱も 1 日程度です。
ヘルパンギーナも少し出てきました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない
短期の高熱の夏風邪様の例が増加。ヘルパンギーナが少し見られ始めた。
インフルエンザは当院では見られなくなった。
感染性胃腸炎があるがノロ様嘔吐例が持続、ロタへ減少してきた。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザはほとんど発生していない。
ロタウイルスを中心とする感染性胃腸炎の流行は続いている。
手足口病、ヘルパンギーナも増加している。
高熱・咽頭痛のみの咽頭炎は大部分がウイルス性だが、一部溶連菌陽性例も含まれている。

平成27年 6月 5日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 22 週(5 月 25 日～ 5 月 31 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.71	(4.53)	→	↗	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	3.24	(3.00)	↗	→	↗	↘
3	手足口病	2.79	(2.53)	↗	↑	→	↘
4	咽頭結膜熱	0.59	(0.56)	↗	↑↑	→	↗
5	突発性発しん	0.32	(0.44)	→	→	→	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎は前週に比べ少し増加しましたが、例年並みの患者数で推移しています。

A群溶連菌咽頭炎はやや増加しています。特に郡山保健所、中和保健所管内では高いレベルを維持しています。

咽頭結膜熱は郡山保健所管内で増加しています。 患者年齢は4歳以下が中心です。

4月以降増加傾向にあった手足口病の患者報告数が、郡山保健所管内では、警報基準値の5.0を超え、5.1となりました。また他の地域でも例年より高いレベルで推移しています。患者年齢は3歳以下が約7割を占めています。例年夏季に急増しますので今後さらに流行が拡大すると思われます。原因ウイルスは口から侵入しますので、手洗い・うがいを心がけ、おもちゃ・タオルの共用をさけるなど予防に努めて下さい。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

感染症自体は多くない。相変わらず手足口病が保育園児を中心に流行している。

一旦減少した感染性胃腸炎は、幼児から小学生でウイルス性の増加がみられる。成人では鶏肉の生食による細菌性胃腸炎が続いている。今週、久しぶりに幼稚園児で流行性耳下腺炎が増えている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。短期の発熱、軽度咽頭発赤の夏風邪が主。

感染性胃腸炎は減少。手足口病が僅かに増加中。ヘルパンギーナは少ない。

他にA群溶連菌感染症が少し。

南部地区(県立五條病院小児科)

アデノウイルス性咽頭炎が増加している。咽頭結膜熱は散発。

手足口病やヘルパンギーナは横ばい。感染性胃腸炎は減少気味。

発熱・頭痛だけの受診者は感染症と軽度熱中症の鑑別が難しくなってきた。

平成 27 年 6 月 19 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 24 週(6 月 8 日～ 6 月 14 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

平成 27 年第 24 週(6 月 8 日～6 月 14 日)

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.74	(3.65)	→	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	4.06	(2.85)	↗	↗	↗	↑
3	手足口病	3.79	(2.26)	↑	↑	↑	↑
4	突発性発しん	0.56	(0.56)	↑	↑	→	↓
5	咽頭結膜熱	0.38	(1.32)	↘	↘	↘	↘

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

A 群溶連菌咽頭炎・手足口病が県内全域で再び増加しており、特に手足口病は北部(郡山保健所管内)での報告数が多くなっています。患者年齢は 1 歳から 4 歳までが全体の約 8 割を占め、保育園、幼稚園での感染が疑われます。 A 群溶連菌咽頭炎の患者年齢は 3 歳から 8 歳までと幅広くなっています。発熱・のどの腫れなどがある場合は、医療機関を受診して下さい。

手足口病と同様、発疹を伴う疾患として伝染性紅斑、ヘルパンギーナの報告数は低いレベルで推移していますが、例年夏季に流行のピークを迎えるため、今後注意が必要です。 ワクチンはありませんので、予防のためよく手を洗いましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

溶連菌咽頭炎が増えています。猩紅熱様の発疹の出現するものもありますが、咽頭痛だけの場合もあります。手足口病の流行が続いています。発熱は 1 日程度で軽症例がほとんどです。感染性胃腸炎はウイルス性が幼児で、細菌性が10才以上でみられます。伝染性紅斑も時にあり、成人感染例では、手のこわばりや関節痛を訴えます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は普通。手足口病が流行中。殆どは軽症であるが、8 ヶ月女児で発熱、手足に水疱密集、下肢の一部は2X3cmと巨大水疱形成で CA6型を疑いウイルス分離提出。

ヘルパンギーナは多くないが 14 才男子でヘルパンギーナ様咽頭所見の例があった。

小学高学年から中学生で高熱例があり咽頭発赤中等度の例があり一見インフルエンザ様の例があった。

他には短期の発熱、咽頭発赤を主にワンパターンでない種々の夏風邪が見られる。

感染性胃腸炎も流行中。水様下痢例があるがロタは見られなくなった。

A 群溶連菌感染症があるが、乳児で類似の発疹がありキット陰性の診断不明例があった。

MCLS が複数例続き紹介入院とした。

南部地区(県立五條病院小児科)

手足口病、ヘルパンギーナ、咳嗽を伴わないウイルス性咽頭炎が多くなってきた。

軽症の胃腸障害は夏カゼの伴発症や寝冷え、冷たいものの過剰飲食によるものと思われた。

奈良県感染症情報

平成 27 年　第 26 週(　6 月 22 日～　6 月 28 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です！！

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	6.62	(6.26)	↑	↑	↑	↑
2	感染性胃腸炎	3.26	(3.26)	↘	↘	↘	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	2.09	(2.79)	↘	↘	↘	↓
4	伝染性紅斑	0.68	(0.26)	↑↑	↑↑	↑	↓
4	突発性発しん	0.68	(0.65)	↗	↑	→	↗

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

手足口病は今週も報告数は増加し、県内全域で流行が続いています。年齢別では、1歳から 4 歳の乳幼児が全体の約 75%を占めていますが、5 歳、6 歳の報告数も多くなってきています。

ヘルパンギーナおよび伝染性紅斑(りんご病)が、奈良市保健所管内、郡山保健所管内で増加傾向にあります。いずれの疾患も今後さらに増加すると予想されますので、手洗い、うがいの励行、タオルの共用は避ける等の予防を心がけてください。

感染性胃腸炎は横ばいで推移しています。原因として依然ロタウイルスによるものが基幹定点より 2 例報告されています。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

手足口病の流行が保育園児から小学生に拡大しています。発熱はあっても 1 日程度、口内炎や水泡性発疹も例年に比べ軽症例が多いが、罹患後 1 か月して手足の爪の剥離がみられた子もいる。1 日程度の高熱と嘔吐、嘔気を伴う頭痛がある夏かぜも小学生高学年以上でよくみられる。

熱と腹痛を訴える溶連菌咽頭炎の子もいる。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は普通。手足口病が流行。殆どは軽症。両親に伝染した例があったが成人は両手足に水疱が多発で子供より重い経過であった。

ヘルパンギーナ様咽頭所見と発熱が先行し水疱がほぼ一日遅れて出現する印象。

他に感染性胃腸炎が流行。

伝染性紅斑は報道されているが当クリニックではまだ見られない。

他にウイルス性発疹症と思われる不明例で分離依頼中の例がある。

南部地区(県立五條病院小児科)

高熱、頭痛、嘔吐ではじまるウイルス性咽頭炎が急増。咽頭痛あるも咽頭発赤は軽微で項部硬直等はなく、対症療法で 1～2 日のうちに軽快するも、髄膜炎様の症状なので鑑別が難しい。

手足口病はやや減少。胃腸炎は夏カゼに伴うものがほとんどであった。

奈良県感染症情報

平成 27 年　第 28 週(　7 月　6 日～　7 月 12 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより　今シーズンの手足口病について

手足口病警報発令中です!!

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	15.71	(7.74)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	2.71	(2.41)	↘	→	↘	↓
3	ヘルパンギーナ	2.24	(1.00)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	A群溶連菌咽頭炎	1.79	(1.21)	↘	↘	↘	↓
5	伝染性紅斑	0.68	(0.26)	↑	↑	↑↑	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

警報発令中の手足口病は、県全体で報告数がほぼ倍増し、過去 10 年の平均を大きく上回る規模で大流行しています。これまでの手足口病より水疱が大きい症例などが引き続き報告されています。また、ヘルパンギーナも増加し、今後さらに増加すると予想されますので、手洗い、うがいの励行、タオルの共用は避ける等の予防を心がけてください。また、前週は減少傾向にあった A 群溶連菌咽頭炎および伝染性紅斑は増加しました。感染性胃腸炎は、今週もロタウイルスによるものが基幹定点より 1 例報告されています。

そろそろ夏休みの時期です。期間中に海外旅行される方は、国内だけでなく海外で注意すべき感染症について情報収集し、感染予防に努めましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

手足口病の大流行が続いています。7 月前あたりより水泡性発疹の性状が赤く扁平にちかいものから隆起が目立ち四肢ばかりでなく口のまわりにもみられ、原因ウイルスが変わってきたようです。口内炎と高熱だけのヘルパンギーナもそろそろ増えそうです。発熱と激しい咳がでてくるマイコプラズマを疑わせる気管支炎も目立ちます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病が保育所・幼稚園で大流行中。

幼児が多いが入所・入園なく同胞もない乳児もある。学童では少ない。子供から罹患の成人もある。

高熱・ヘルパンギーナ様咽頭所見から1～1．5日後、ほぼ解熱した頃に膝あたりから小さな発疹が確認されその後様々な発疹が出現する経過が多い。

発疹は、四肢に典型的な水疱が出る場合でも、大腿から下腿全体、一部臀部に粟粒から米粒大の水疱を伴わない発疹が密集し2種類の発疹の様相を呈する例も多い。

四肢の水疱が大きく数も多い数例で CA6を疑い分離依頼中。

やや年長児で、熱なく咽頭所見も殆どなく膝などにごく小さい類似の発疹が散在するタイプのやはり手足口病あるいは CA 感染と思われる例もある。

その他感染性胃腸炎が少し流行性中。

南部地区(県立五條病院小児科)

手掌・足蹠・口腔の水疱が乏しく、前腕・下腿に多数の水疱や発赤が出現する手足口病が増加している。熱も1～2日みられ今夏2度目の手足口病罹患者もいた。別タイプと思われる。

夏カゼに関連した胃腸炎やヘルパンギーナも多い。

平成 27 年 7 月 31 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 30 週(7 月 20 日～ 7 月 26 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	13.65	(16.35)	↗	↗	↗	↓
2	感染性胃腸炎	1.94	(2.15)	↘	→	↘	↓
3	ヘルパンギーナ	1.71	(3.21)	→	→	↗	↘
4	A群溶連菌咽頭炎	0.88	(1.38)	↓	↘	↓	↓
5	伝染性紅斑	0.38	(0.35)	→	↘	↑	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

警報発令中の手足口病は、郡山保健所管内では増加しましたが、その他の保健所管内では減少しました。県全体での報告数も減少しましたが、依然として過去 10 年の平均を大きく上回る規模での流行が続いています。患者は引き続き 6 ヶ月児から 5 歳児が中心となっています。流行が終息するまでは、感染予防のための手洗い、うがいを心がけると共に、患者とのおもちゃやタオルの共用は避けることが大切です。前週増加傾向にあったヘルパンギーナは減少しました。

感染性胃腸炎およびA群溶連菌咽頭炎は減少しました。伝染性紅斑は横ばいです。また、季節外れのインフルエンザが 1 例報告されています。

暑い日が続いています。これから夏本番を迎え、プールや海に遊びに行ったり、人混みの中へ出かけることも多いかと思います。手洗いやうがいを励行するなど、感染症対策を心がけましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

夏休みとなり、患者数はやや減少気味。手足口病の大流行が続いています。4−6 月に手足口病に罹患した子で今年 2 回目の手足口病に罹患した子が増えてきました。最初に 38 度前後の発熱があって、口腔所見はほとんど無く、半日から1日程度で下熱後手足に発疹が出現する傾向にあるので診断が難しい場合があります。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病の流行が続いている。

高熱、咽頭ヘルパンギーナ様所見後 1～1.5 日で解熱し同時に膝付近から小発疹が出現し次第に手足に水疱を形成する経過が多く観察される。

1 週間後くらいに手足指の皮膚が厚く剥離する例が数例あった。

手指の爪の付着部位が三日月形に黒く変色し来院の例があった。

今後剥離するかどうか現在では不明。

ウイルス分離では CA6が分離された。(7 月 2 日、及び 6 日提出検体の2例で 24 日報告受理)

A 群溶連菌感染症(他医院で陽性)例に同時併発の手足口病もあった。

他に A 群溶連菌感染症、感染性胃腸炎もあった。

南部地区(県立五條病院小児科)

手足口病はやや減少傾向。高熱のみの夏カゼは続いている。

夜間のエアコンの影響と思われる呼吸器感染症は増加してきた。軽症だが遷延する例も多い。

平成 27 年8月14日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 32 週(8 月 3 日～ 8 月 9 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	7.06	(9.97)	↘	↘	↓	↓
2	ヘルパンギーナ	1.97	(2.65)	→	→	↘	↓
3	感染性胃腸炎	1.82	(1.68)	→	→	→	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.03	(0.76)	→	→	→	↘
5	突発性発しん	0.44	(0.47)	→	↘	→	↑

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

手足口病は、県内全域で報告数が減少しました。前々週から減少を続けており、流行のピークは過ぎたように思われますが、例年同時期より報告数は多く、警報基準値を未だ上回っているため警報は継続しています。

感染性胃腸炎とA群溶連菌咽頭炎がやや増加しています。感染者の鼻汁や便などの排泄物や、咳などから経口的に人にうつるため、手洗いやうがいを励行し清潔を保つよう心がけましょう。

全国的に過去 5 年の同時期よりも報告数が多い状況が続いている伝染性紅斑(りんご病)は、奈良県では北部・中部合わせて8件の報告がありました。奈良県としては例年よりやや多い状況です。また、季節外れのインフルエンザが 3 件報告されています。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

大流行していた手足口病はやっと落ち着いてきた。

3−4 週前に手足口病に罹った子の手足の皮膚の剥離がよくみられる。もうすぐ爪の剥離も見られるものと思われる。

熱発当日に受診した子はヘルパンギーナか手足口病か判断しかねる場合が多い。発熱と頭痛と嘔気、嘔吐の夏かぜも続いている。

南部地区(県立五條病院小児科)

手足口病はさらに減少、ヘルパンギーナの流行は横這い。

軽症の咳嗽が遷延する例が多くなってきた。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 34 週(8 月 17 日～ 8 月 23 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	手足口病	3.06	(2.21)	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	2.21	(0.82)	↗	↗	↗	↗
3	ヘルパンギーナ	1.18	(1.00)	↘	→	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.74	(0.62)	↘	→	↘	↓
5	突発性発しん	0.47	(0.44)	→	↗	↘	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

手足口病は、1歳児と2歳児からの報告が多い状況が続いています。警報も継続しています。近隣2府4県についても報告数は減少していますが、いずれも警報の終息基準値の2.0を上回っています。

感染性胃腸炎の報告が増加しています。特に、郡山保健所管内、中和保健所管内で増えています。患者は、1歳代が最も多いものの全ての年齢層で報告されています。排泄物の処理法を誤ると感染拡大につながるため、排泄物の処理法の確認を行い、集団感染を引き起こさないよう注意してください。

新学期が始まると、子ども同士の接触が増えます。手洗い、うがいを徹底させましょう。また、タオルやおもちゃの共用を避けるなど感染症の流行を防止するよう努めましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

北和地区外来情報:夏季休診のため1週間だけの情報です。大流行していた手足口病は減少した。手足の爪の剥離がみられる子が増えている。他に目立った感染症はありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

中和地区外来情報:外来数は少ない。
手足口病はすっかり減少した。
8月初旬にA6が分離された例で爪剥離例がみられたが、両手指球側の皮膚剥離例もあった。
夏風邪様咽頭所見、ヘルパンギーナ等も減少した。
感染性胃腸炎が少し。水様便の例もあるが原因の特定に至っていない。

南部地区(県立五條病院小児科)

手足口病は減少が続く。典型的な夏カゼ咽頭炎も減っている。
かわって遷延する咳嗽が中心の呼吸器疾患が増加している。熱がなくアレルギー的な咳嗽と思われたが、マイコプラズマ肺炎例もあり、鑑別に苦慮した例もあった。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 36 週(8 月 31 日～ 9 月 6 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要
- 小児科外来情報
- 気になる話題 「麻しんのワクチンは忘れずに受けてください」

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

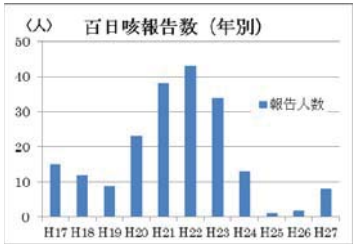
順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	(1.50)	→	↗	→	↘
2	手足口病	1.62	(2.35)	↓	↓	↓	↓
3	突発性発しん	0.59	(0.62)	↗	→	↑	↑
4	咽頭結膜熱	0.56	(0.59)	↑	↑↑	↗	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.56	(0.32)	→	↘	→	↗

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

手足口病が、警報終息基準値の2.0を下回りましたので、警報は解除となりました。

小児科外来情報にも記載されていますが、今年は百日咳の報告が平成25～26年に比べ多く、8月末までで8人となっています。この8人の年齢別は、6ヶ月未満3人、1歳児1人、8歳児2人、10歳～15歳未満2人で、偏りはありません。全国の年齢別では20歳以上が約2割ですが、百日咳は小児科定点報告疾患のため、実際の成人の患者数はもっと多いと思われます。百日咳ワクチン(三種混合もしくは四種混合ワクチンとして接種)を接種していても、身近に流行がないため、成人では免疫が減衰していると推測されています。成人は咳が長期に続くものの乳幼児のような重篤な咳(けいれん性の咳発作)は稀で、症状が典型的ではないために見逃されやすく、周囲へ感染を拡大させてしまいます。1歳以下の乳児、とくに生後6ヵ月以下の子どもでは亡くなることもあります。感染を拡げないため手洗い・うがいの励行、また咳があるときは小さなこどもに近寄らないなど、気をつけてください。



✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

学校が始まり、気候も秋を感じられるようになり、病気は少なくなっています。
一旦、ほとんどみられなくなった手足口病が乳幼児で少しでてきています。同時に爪が剥がれはじめている子をよくみかけます。多くはありませんが伝染性紅斑や乳児で百日咳がでました。幸にも抗生剤の処方で咳はやや軽快し入院は免れています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は2学期の開始、気候の変化とともに少し増加しているがまだそう多くない状況である。
夏風邪は殆ど見られなくなり、1日程度の発熱の上気道炎が主。
ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎も減少。
手足口病も激減し僅かに軽症の例がある程度。
咳嗽の風邪も少ない。

南部地区(県立五條病院小児科)

ヘルパンギーナが散見されるも、手足口病はほとんどみなくなった。
遷延する咳嗽症例や軽度の胃腸炎が更に増加している。ほとんど対症療法で軽快するも、マイコプラズマ感染や喘息発作を伴うものは注意が必要と思われる。

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 38 週(9 月 14 日～ 9 月 20 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.18	(1.74)	↗	→	↗	↑↑
2	RS ウイルス感染症	0.82	(0.65)	↑↑	↑↑	↑	↓
2	手足口病	0.82	(0.94)	↓	↘	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.71	(0.91)	→	→	↗	↗
5	突発性発しん	0.44	(0.41)	→	→	→	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

このところ、全体的に患者数は少なく、落ち着いた状況ともいえますが、RSウイルス感染症は、例年並みに増加を続けています。その他、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎もごくわずかながら、報告が続いています。インフルエンザは、他県では9月に入った頃から学級閉鎖が相次いでおり、奈良県でも昨年は9月末には奈良市内で学級閉鎖がありました。インフルエンザは、飛沫感染と接触感染で感染します。インフルエンザの感染を防ぐポイント**「手洗い」「マスク着用」「咳(せき)エチケット」**を心がけましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

感染症対象疾患は、例年通り少ない状態が続いています。手足口病が乳幼児であり、伝染性紅斑が幼児以上でみられます。久しぶりに流行性耳下腺炎がありました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。
ヘルパンギーナ、手足口病等夏風邪は殆ど減少した。
伝染性紅斑が少し。感染性胃腸炎も減少。
アレルギー疾患が多く感染症の登録疾患は少ない状況。

南部地区(県立五條病院小児科)

嘔吐、頭痛、発熱のあと水様下痢が数日続く感染性胃腸炎が急増している。発症時、輸液を必要とする症例も多いがほとんど重症化せずに軽快している。
また、咳嗽遷延例もさらに増加。下気道感染併発や喘息発作誘発例もあり、注意を要する。

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 40 週(9 月 28 日～ 10 月 4 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 月報告対象疾患報告状況(平成27年9月報)

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.82	(1.65)	→	↗	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.79	(0.76)	↗	↗	↗	↓
3	RS ウイルス感染症	0.65	(1.06)	→	↘	→	→
4	突発性発しん	0.50	(0.38)	→	↗	↘	↓
5	咽頭結膜熱	0.47	(0.18)	→	↗	→	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎が前週に続き今週も一番多い報告数でした。秋から冬の感染性胃腸炎は、ノロウイルスが原因となることがほとんどです。ノロウイルスは、今季新型の流行が懸念されています。新型ノロウイルスは免疫を持つヒトが少なく、大人も子どもも感染しやすい状況です。保育園、小学校、福祉施設など集団発生が起こりやすい所は特に注意が必要です。感染経路は経口感染が多く、手洗いをしっかり行うことや食べ物を十分に加熱することが予防につながります。

夏の疾患の手足口病とヘルパンギーナの報告が少数ですが続いています。体調が良くなってからも、便からのウイルス排泄は 3～4 週間ほど続きます。おむつの交換後や排便後の手洗いを励行しましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

本格的に秋の気候となり、感染症も衣替えとなった。手足口病やヘルパンギーナはほとんど無くなり、替わって RS ウイルス感染症が保育園児ででてきた。ウイルス性の感染性胃腸炎はまだない。伝染性紅斑が時々みられ、流行性耳下腺炎もでてきている。水痘はワクチン定期接種のためかずっとみられない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。
手足口病、ヘルパンギーナは見られなくなった。
感染性胃腸炎は多くないが、ロタウイルス陽性例が1例あった。発熱なく軽症。
10歳女児で典型的レ線像を呈したマイコプラスマ肺炎があった。
インフルエンザを疑う例はまだない。

南部地区(県立五條病院小児科)

胃腸炎は減少。典型的なノロウイルス胃腸炎は発生していない。
遷延する咳嗽症例は依然として多い。少数ながら時々、夏カゼがまだみられる。

平成 27 年 10 月 23 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 42 週(10 月 12 日～ 10 月 18 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.68	(2.41)	↗	↑	↗	↓
2	RS ウイルス感染症	1.62	(1.03)	↑	↑	↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.82	(0.85)	→	→	→	→
4	突発性発しん	0.56	(0.50)	↗	→	↑	↓
5	流行性耳下腺炎	0.50	(0.24)	↑↑	↑↑	↑	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

この時期に流行する RS ウイルス感染症が 37 週以降、ゆるやかではありますが毎週報告が増え続けています。先週は 0 歳児から 3 歳児に報告が集中しましたが、今週は 4、5 歳児からも報告がありました。タオル、食器、おもちゃ等の共有を避け、手洗い、うがいを励行しましょう。

流行性耳下腺炎が北部で増加しています。流行性耳下腺炎はムンプスウイルスが原因の感染症で、一般には「おたふく風邪」と言われています。小児に多い感染症ですが、どの年齢層でも感染することがあり、成人が感染すると症状が重くなる傾向にあります。今週は、20 歳以上の成人からの報告が 1 例ありました。予防には手洗い、うがい、予防接種が有効です。予防接種は、任意接種で1歳以上から接種することができます。

マイコプラズマ肺炎が今週も 5 例報告がありました。咳エチケットを行い、感染が広がらないようにしましょう。9 月から毎週数例ずつ報告が続いていたインフルエンザの報告は、今週はありませんでした。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザ予防接種希望者を除くとそれほど多くないが、保育園児で弛張熱と鼻水とゼロゼロしたひどい咳の RS ウイルス感染症が3歳以下の子で大流行しています。5 歳前後の保育園児では流行性耳下腺炎が流行しています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はまだ多くはない
感冒が増加しているがインフルエンザはまだない。
典型的胸部レ線像を呈したマイコプラズマ例が 2 例続いた。
RS 陽性例はなかった。
感染性胃腸炎が流行中、ノロ様例があるが検査実施可能年齢は少なく
陽性を確認した例はない。
伝染性紅斑、流行性耳下腺炎、ごく軽症の手足口病疑い例があった。

南部地区(県立五條病院小児科)

遷延する咳嗽は依然多い。RS ウイルス陽性例もあり。
ノロウイルス胃腸炎もみられだしたが、まだ数は少ない。
ヘルパンギーナがまだ時々みられる。高熱、関節痛例にインフルエンザ検査するも陰性であった。

平成 27 年 11 月 6 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 44 週(10 月 26 日～ 11 月 1 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	3.53	(4.03)	↗	↑	→	↑
2	RS ウイルス感染症	1.88	(1.35)	↑	↗	↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.06)	↑	↑	↑	→
4	咽頭結膜熱	0.50	(0.15)	↑	↑	↗	↓
4	突発性発しん	0.50	(0.41)	→	→	→	↑↑

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の患者報告が多い状況が続いています。患者の年齢層に偏りはなく、広範囲の年齢層から報告があります。例年ではこの時期からノロウイルスによる感染性胃腸炎流行が本格化します。幼稚園や学校等の集団生活の場では特に手洗い・うがいといった基本的な感染症予防を心がけてください。

RSウイルス感染症は例年より高いレベルで推移しており、北部・中部地域で増加が目立ちます。RSウイルス感染症は飛沫感染、接触感染によって感染します。症状としては軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、乳幼児、特に生後数週間～数ヶ月の子どもは重症になることがあるため注意が必要です。

インフルエンザの報告が中和保健所管内から3例ありました。早めにインフルエンザの予防接種をする事をおすすめします。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、相変わらずで予防接種を除けばそれほど多くない。嘔吐下痢の感染性胃腸炎は徐々に増加しそうな雰囲気がある。保育園児で RS ウイルス感染症が少なくなったが続いている。流行性耳下腺炎も保育園児で流行している。伝染性紅斑も時々みられ、保護者に感染している。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は急な気候の変化と共に急増。発熱、咳の軽度の上気道炎が主であるが、
中にRS 様やマイコプラスマ様のレ線像を呈する例もある。
手足口病が再ブレイクの気配。重症でなく CA16？と思われるが
舌の口内炎、両手に水疱集中、という臨床像。
他に伝染性紅斑、ヘルペス口内炎が少し。
感染性胃腸炎も流行中。ノロ、ロタは陰性。

南部地区(県立五條病院小児科)

鼻汁、咳嗽の遷延する呼吸器感染症が多いが、RS ウイルス陽性例もみられる。嘔吐中心の胃腸炎も増加してきている。また一部保育所でムンプスの流行がある。

平成 27 年 11 月 20 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 46 週(11 月 9 日～ 11 月 15 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 月報告対象疾患報告状況(平成27年 10 月報)

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.15	(4.18)	↑	→	↑↑	↑↑
2	RS ウイルス感染症	2.50	(1.88)	↑	↘	↑↑	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.53	(1.32)	↗	↑	→	→
4	伝染性紅斑	0.44	(0.21)	↑	↑	↗	↓
5	咽頭結膜熱	0.35	(0.18)	→	↘	↑	↓

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎は大きく増加しています。これからはノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加する時期です。ノロウイルスは感染力が非常に強いので、高齢者施設、幼稚園、学校等の集団生活の場では特に手洗い・うがいを励行しましょう。

RS ウイルス感染症は、例年よりかなり高いレベルで推移しています。症状は、軽い風邪様の症状から重い肺炎とさまざまですが、乳児期、特に生後数週間～数か月の子どもは重症になることがあるため、感染しないように注意してあげて下さい。大人自身も健康に気を配り、家庭に感染症を持ち込まないことが、子どもを感染症から守ることにつながります。

インフルエンザの報告は 5 例ありました。伝染性紅斑や流行性耳下腺炎の報告が続いています。

通勤・通学、職場、学校、塾など人が多く集まるところで感染は広がります。手洗い・うがい、咳エチケットを心がけましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザなどの予防接種を除けば増加していない。
インフルエンザは当院ではまだでていない。流行性耳下腺炎が保育園児で流行が続いている。
RSウイルス感染症、溶連菌咽頭炎、アデノウイルス感染症、伝染性紅斑等が散見される。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加。
発熱、乾性咳嗽が頻回の RS 様・マイコプラスマ様の例が多い。
8 才女児で咳嗽少なく発熱もない例でかすかな聴診所見から診断の
典型的 X 線像・WBC・CRP 増加の例があった。
RS 気管支炎は検査実施例は少なく確定例は少ないが乳幼児で疑い例が多い。
感染性胃腸炎が流行。嘔吐が主のノロ様例が多いが高熱の出る例も多い。
ロタはなかった。
伝染性紅斑が流行中、35 歳の母親例が2例あり発疹のほかに全身倦怠、関節痛を伴った。
流行性耳下腺炎も増加中。
インフルエンザはまだなく検査実施例も少ない。

南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎が増加してきている。症状は例年と同じく嘔吐中心で、熱や下痢を伴うこともある。
一部保育所中心に流行性耳下腺炎の流行が続いている。5 日経過し登校再開後に頭痛・発熱訴える例もあるので、しばらく注意するよう説明している。

平成 27 年 12 月 4 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 48 週(11 月 23 日～ 11 月 29 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	6.62	(8.12)	↗	↑	→	↑
2	RS ウイルス感染症	3.29	(3.71)	↗	↑	→	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(1.82)	→	→	↗	→
4	咽頭結膜熱	0.91	(0.56)	↑↑	↑	↑↑	↑↑
5	伝染性紅斑	0.59	(0.53)	↑	↑	↘	→

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎および RS ウイルス感染症の患者報告数は、先週に比べやや減少しましたが、地域により差が認められています。特に、奈良市保健所管内、郡山保健所管内の県北部地域で増加が認められ、中和保健所管内では減少しています。

咽頭結膜熱は 3 週続けて増加傾向が見られます。患者年齢は 1 歳から 2 歳に多い傾向です。

マイコプラズマ肺炎および流行性耳下腺炎は、奈良市保健所管内より継続的に報告されています。

インフルエンザは、奈良市、郡山、中和保健所管内から報告されています。今後、寒くなり流行することが予想されますので、基本的な予防対策:うがい、手洗い、マスクの着用等を心がけて下さい。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来数はインフルエンザ等の予防接種を除くとあまり多くはない。再び、RS ウイルス感染症が保育園の乳幼児で大流行となっている。4-5 歳くらいまでは兄弟で発熱がみられる。流行性耳下腺炎も流行が続いている。数は少ないが水痘がみられ、2 回接種をした子でも発症があった。ノロウイルスによる感染性胃腸炎がそろそろ保育園で増加しそうである。嘔吐は軽度で、下痢症状は長い場合もある。伝染性紅斑が数週間続いてでている。インフルエンザはまだみられない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は次第に増加傾向。
乾性咳嗽の激しいマイコプラスマ様の例が多い。
乳幼児では RS 陽性例もあり保護者の話で幼稚園・保育所で流行ありとの事。
感染性胃腸炎も流行中、ノロ様の嘔吐例が多い。
ワクチンの効果か、ロタは減少してきたと思われ陽性例はなかった。
A 群溶連菌感染症も流行中。一旦増加していた手足口病は見られなくなった。
インフルエンザ陽性例はまだない。

南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎、RS ウイルス感染は依然流行は続いている。ムンプス流行も継続中。
インフルエンザは増加の様子はない。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 50 週(12 月 7 日～ 12 月 13 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

■ 小児科外来情報

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	10.50	(7.94)	↑	↑	↗	→
2	RS ウイルス感染症	5.29	(4.62)	↑	↗	↑	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.97	(2.47)	→	→	↗	↓
4	伝染性紅斑	0.88	(0.68)	↑	↑	↗	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.53	(0.59)	→	↗	↘	↑

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の定点当たりの患者報告数が、前週に比べ約1.3倍に増加しました。この時期、感染性胃腸炎の原因の多くはノロウイルスですが、一部の地域:中和保健所管内ではA群ロタウイルスが検出されています。

インフルエンザは患者報告数が徐々に増加しています。先週のA香港型の検出に続き、吉野保健所管内で、AH1pdm09 による集団発生事例(小学校)がありました。特に集団生活の場では、拡散を防止するためにも、うがい、手洗い、マスクの着用を心がけて下さい。

流行性耳下腺炎は、内吉野保健所管内での報告が多く、県全体でも患者報告が依然続いています。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

インフルエンザがでてきました。精密検査ではA香港型(AH3)が検出されています。登美が丘小学校の学級閉鎖もAH3の検出だそうです。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎も増加してきました。幼児が罹患し、その後家族に拡がっています。例年通りで軽症です。

伝染性紅斑が数は少ないですがよくみられます。この疾患はあまり外来受診をされない場合が多いので流行しているものと思われます。

RSウイルス感染症はインフルエンザに呼応する形で少なくなってきました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加しつつあるがそう多くはない状況。
発熱、乾性咳嗽の感冒症状が主。RS 陽性例、マイコプラスマ様の例も続いて見られる。
感染性胃腸炎は嘔吐が主でノロ様。輸液を必要とする程の例はない。
インフルエンザは当クリニック内科でA型陽性例が1例あったが小児科ではまだない。
他に流行性耳下腺炎、伝染性紅斑が僅かづつ見られる。

南部地区(県立五條病院小児科)

ノロウイルス胃腸炎はやや減少傾向にあるが、RS ウイルス感染の流行は続いている。
また、ムンプスの流行も依然続いている。5 日間の自宅療養後に頭痛・嘔吐のみられる例や、その父親の感染例もあり注意を促している。

奈良県感染症情報

平成 27 年 第 52 週(12 月 21 日～ 12 月 27 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htmTEL:0744-47-3183

今週の概要

◆ 小児科外来情報

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	8.29	(8.15)	→	→	→	→
2	RS ウイルス感染症	3.71	(5.00)	→	→	↘	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.68	(2.12)	→	→	↘	↑
4	伝染性紅斑	1.00	(0.68)	↗	↗	↑	↓
5	咽頭結膜熱	0.50	(0.74)	↘	→	↓	↘

❖定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)❖

発生状況:大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
増減:過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

感染性胃腸炎の患者報告数は、前週と変わらず横ばいですが昨年同時期よりも多い状況が続いています。

RS ウイルス感染症は、やや減少しました。

感染性胃腸炎は経口感染、RS ウイルス感染症は飛沫感染と接触感染で感染が広がります。幼稚園や小学校が始まると、子ども同士の接触が増え患者数が増加する可能性があります。手洗い・うがいを励行し、おもちゃや食器の共有などを避けるようにしましょう。

水痘は、県全体で 15 例、そのうち郡山保健所管内から 13 例の報告がありました。9 歳以下での発症が 90%を占めると言われていますが、10～14 歳代からの報告が 3 例含まれています。

インフルエンザは、前週に続き大きな変動はありません。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

学校と幼稚園が冬休みになり、感染症は減ってきました。保育園児が中心になっています。ノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行が続いています。保育園児とその家族が多く、嘔吐は 1 日以内に回復しやすく、その後下痢が続きますが数日続くことが多いようです。RS ウイルス感染症と流行性耳下腺炎が保育園児でみられます。インフルエンザはみられなくなりました。1 月中旬以降に流行が始まりそうです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は年末のためもあって増加。
インフルエンザは僅かに単発でみられ流行はまだなく、感染症は種々雑多の様相。
9 歳の典型的レ線像のマイコプラスマ肺炎があった。 乳児 RS 様の例も続いている。
伝染性紅斑が大流行中。幼稚園、小学校児に多く発疹は臀部などにも出現。
感染性胃腸炎も流行、ノロ様の嘔吐例が主。ロタが予防接種未接種の乳児で1例あった。
水痘も少しあり 7 才の予防接種未接種例があった。その他 A 群溶連菌感染症、EBV があった。

南部地区(県立五條病院小児科)

市内のムンプスの流行は依然継続中。重症例はない。
RS ウイルス感染やノロウイルス胃腸炎は流行中だがピークを越えた感がある。
インフルエンザの流行はまだみられない。